

blousonite.com



四日市にて

多文化共生について

平成29年9月の議会で、多文化共生について質問しました。その時の行政からの返事は、前向きな返答をいただきました。行政は4月から、新年度予算が始まり、3月の議会で、その内容を報告することになっています。それで、予算がついて、行政が実行してくれることになりました。多文化共生については、範囲の広い分野なので、全ての分野でできたわけではないです。

今回の予算では、ホームページでの多言語化への対応が実施されます。これについては、「今後、ホームページでの情報発信を含め、窓口対応における手続など、4～5ヶ国語での対応を検討してまいります。」との答弁が、9月議会でありました。それで、今回予算をつけて実行することになりました。言語は、具体的には、英語、中国語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語の予定です。

この翻訳ですが、人間つまりそれぞれの言語の専門家が、逐次ホームページを翻訳するのではなく、コンピュータによって、自動的に翻訳されます。過去からのデータを引き継いでいる膨大な量の朝日町のホームページを人間が全て翻訳するとすれば、巨額の費用と時間がかかり、恐らく無理でしょう。それから考えれば、コンピュータを使用しての翻訳は合理的で妥当な判断だと思います。

現在、インターネット上の無料翻訳サイトがあり、そこにホーム

ページの文章や自分で作った文章を入れると、いろいろな言語に翻訳されます。使ったことがある人であれば、この翻訳機能が極めて不完全であることが、わかると思います。

朝日町で今回導入されるものは、そのようなものではありません。有料の、つまり朝日町行政がお金を出して購入する翻訳のソフトウェアです。今回の行政の判断は、時代の流れに対応しており、よいものだと思います。

ただし、今後施策の追加も必要だと私は考えております。英語圏や中国語圏から日本に移住して、就業査証や永住権を持っている人は、日本語を高度な次元で使いこなせる場合が多いです。そもそも、そうでなければ、就業査証や永住権は得られないからです。

多文化共生の中で日本人の理解を深めるためには、普段の生活における理解が必要です。そのためには、ごみの分別、税金など基本的な情報を在住している多国籍の人に伝達する必要があります。例えば、どのごみが燃えるごみで、どのごみが燃えないごみなのかを周知徹底するということです。

現在、日本語が高度に使えない外国人が増えています。それには、ホームページなどで、上記の5つの言語以外の言語についても追加しなければなりません。いずれにしても、今回の行政の判断は適切だと思います。

多文化共生について

表面

多文化共生について、以前に一般質問しており、その後の報告です。

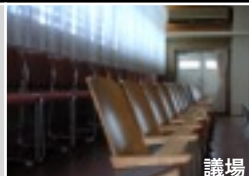


役場

3月議会の質問

裏面

多機能トイレとベビーシートについて質問をしました。



議場

地域パトロール

以前から参加してきました地域パトロールは、防犯ステッカーを使ってのパトロールに変更になりました。

ビスケットの日程

体験教室を中心に行っています。

編集後記

今回一般質問をした件で、行政から、UDほっとねっと四日市という団体のホームページにリンクするという回答をいただきました。この団体は、わかりやすくというユニバーサルデザインを推奨している団体です。それでは、そのユニバーサルデザインとは何かというと、誰でも社会参加できるような社会の設計ということになります。説明の仕方が難しいですね。

それで、UDほっとねっと四日市を見学も兼ねて訪問しました。その日は高齢者の買い物を案内中で、今後の活動を含めて、示唆をいただきました。